



細谷巖太郎

細谷 巖太郎（ほそや いわたろう）

弘化元年（1844）北口村（現河北町谷地）に生まれ、幼少期には当地方で最も有力の文人である榎五鳳、伊藤鳳山らについて読み書き、漢籍の素読等を習い教養をつみました。

明治13年（1880）に県議会議員となり、第11代そして第14代の議長となりました。

明治14年「国会開設の勅諭」が下り、明治政府は明治22年に議会を開設することを国民に約束しました。これにともない、明治14年は板垣退助の自由党が、翌明治15年には大隈重信の立憲改進黨が結成されますが、このころから旧来の富裕層を中心とした政治結社「特振社」の結成に参画します。

明治26年（1893）より貴族院議員に選出され、大正7年（1918）までの間に2期（1期7年）つとめました。明治29年頃には進歩党の結成に参画しています。明治31年ころより憲政党、憲政会山形県支部を創立し支部長をつとめました。

明治31年には国策として設立された農工銀行創設時は頭取に就任し、大正6年まで頭取職をつとめました。

政治家としての活躍とともに、中国明代に詩書画が巧みで三絶と称された「文徵明」と、江戸後期の歴史家、漢詩人「頼山陽」に傾倒して、詩書にも励みました。

とりわけ、東洋古美術への見識と審美眼は高く、美術品の蒐集においては一大コレクションをなしました。